

# 国立音楽院認定 ヴァイオリン製作者

## ニュース & TOPICS

16世紀末に北イタリアで誕生したヴァイオリン。木材から創り出される楽器で、熟練した職人の手仕事によってその製法が現在まで受け継がれている。国立音楽院では職人を養成するコースをもち、資格認定を行う。資格取得者のなかには国際的な弦楽器製作コンクールで受賞した人も。養成コースには夜間部もあり、働きながら学ぶ社会人も多い。

### どう学ぶ？

国内外で豊富な経験をもつプロの職人から技術を学ぶ

国立音楽院のヴァイオリン製作科で学ぶ。授業は実技中心。プロの職人として国内外で豊富な経験をもつ講師が、受講者一人ひとりに合わせて指導する。道具の扱い方から胴体の製作、仕上げまで、ヴァイオリン製作の基礎を固めることができる。

### どう稼ぐ？

資格取得者の進路はさまざま  
海外の工房で活躍する人も

主な就職先は楽器メーカーのヴァイオリン工場や工房、弦楽器専門店、弦楽器輸入会社など。技術に磨きをかけた後、独立して自分の工房を構える人もいる。また、海外の工房などで修行し、現地で職人として活躍する人も少なくない。

望月慎也さん 56歳



国内の工房や海外の教育機関などでの修行を経て、91年に独立。日本弦楽器製作者協会正会員、国際的な弦楽器製作コンクールでの入賞経験もある。

**技術を探求し続ける仕事。  
資格は基礎を修得した証になり、  
ヴァイオリン製作の職人としての  
スタートラインに立てる**

**大学生のとき、  
木工品を創る仕事に惹かれ、  
この世界へ飛び込んだ**

4本の弦で美しい音色が奏でられるヴァイオリン。楽器として、そして工芸品としても奥深い味わいをもつ。材料は木材。木の固まりを削って形を整えていくプロセスには緻密な手仕事が必要となるが、「そこに私は惹かれたのです」と、きつかけを語る望月さん。当時は大学文学部に通う学生。「でもこのまま大学を出て一般企業に就職して、というのは考えられなかった。好きなことを仕事にしようと、志したのが木工の仕事。私は中学・高校時代にフォークギターを弾いていて、楽器作りもいいなと。大学を辞め、ヴァイオリン製作の世界に飛び込んだ。それから約35年。現在は工房をもち、プロの音楽家やヴァイオリン教師などの注文に応じて製作や修理、修復を手がける。お客様が楽器を手にして音を出した瞬間の喜びの表情を見るたび、やりがいを感じる。

望月さんは国立音楽院の講師として後進の育成にも力を注ぐ。「学校で学び、基本を身につける。プロとして長くやるためには重要」。自身もこの世界の第一歩はあるヴァイオリン製作学校での勉強。母校は閉校してしまっただが、そこで得たものが土台になり、今の自分があると話す。

**道具をしっかり研ぐ。  
基本ができてこそ  
表現力がついてくる**

指導のモットーは「道具を研げ、です」。製作にはさまざまな刃物を使う。これらをしっかり研いでよく切れる状態にすること。「それができてこそ木材を自在に削ることができ、表現力を高められるのです」。望月さんの願いは「教え子たちにいい仕事をしてほしい」。就職先で技

**学校で身につけた基本、  
出会った友や師。  
すべてが力になり、  
一生の宝になります。**



さまざまな工具を使い、丹念な手仕事を積み重ねて完成させる。ここで学ぶ生徒は音楽が好きで入学した人もいるが、望月さんのようにもの作りが好きで学び始めた人も多い。

術に悩んでいると聞くと、指導に向く。教え子のなかには国際的な弦楽器製作コンクールの受賞者もいて、新作ができると見せにきてくれるという。よき師弟関係は続いていく。「私の場合、師匠は製作学校時代の仲間たち。卒業後も壁にぶちあたると彼らに教えるを請い、彼らの活躍に刺激を受けてきました。ですから学校では多くの仲間を作ってほしい。いつまでも切磋琢磨し合い、楽器を語り合える仲間は、一生の宝です」

主催団体

国立音楽院

受験資格

国立音楽院の所定のコースで学び、カリキュラムを修了すると資格を取得できる

目安となる取得期間

2年